

【原 著】

「2016年度教師力養成講座」の概要  
—実践的指導力を有する教師の育成のために—

武藤 幹夫 河内 智美 小林 清太郎

Outline of "A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers - Academic year 2016"  
—To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers—

Mikio BUTO, Satomi KOCHI, Seitaro KOBAYASHI

2017

岡山大学教師教育開発センター紀要 第7号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education  
and Development, Okayama University, Vol.7, March 2017

## 「2016年度教師力養成講座」の概要

### — 実践的指導力を有する教師の育成のために —

武藤 幹夫<sup>\*1</sup> 河内 智美<sup>\*1</sup> 小林 清太郎<sup>\*1</sup>

教師力養成講座は、学校現場で実践されている優れた取組を学生に伝えることで、教職への漠然とした不安を取り除き教師という仕事への意欲を高めるとともに、学生の実践的指導力の向上を図ることをねらいとしている。2009年に開始し、参加状況や受講者の意見を参考にして工夫を加えながら継続している。講座は、当初の講義形式から、受講者と共に学習を進めるといった形へ変わってきた。講師選定についても、校長を中心にしたものから児童生徒を直接指導している教諭を含むように改善してきた。本年度の教師力養成講座の概要を報告し、併せて今後の展開の可能性についてもふれる。

キーワード：学校現場で実践されている優れた取組、実践的指導力の向上、今後の展開の可能性

※1 岡山大学教師教育開発センター

### I はじめに

地域のつながりの希薄化や家庭の貧困など子どもを取り巻く環境の複雑化・多様化に伴い、よりきめ細かい生徒指導や特別な支援を必要とする教育など、子ども一人一人への確かな支援が学校に求められてきている。それは、社会から期待される学校の役割が拡大してきている表れでもある。一方、学校現場では教師の大量退職の時代を迎え、新規採用教員数が全国で年間3万人を超える状況が続いている。こうした中で、学校の教育力・組織力と共に、一人一人の教職員の実践的指導力の向上が一層求められている。

教員採用試験に合格し教師として4月から教壇に立つことになった学生に目を向けると、めざしてきた仕事に就ける喜びと共に、指導にかかわるいろいろな不安をかかえている。それは、授業、学級経営、生徒指導、保護者との関係など教師の仕事全般にわたっての不安である。学生に話を聞いてみると、初めて経験することへの不安のほかに、マスコミ等を通して目や耳にする学校や教師に関するマイナス面の情報が不安に拍車を掛けていることがわかる。学生は、不登校やいじめ、校内暴力、保護者対応の難しさ、教員の忙しさなどにかかわって、学校教育の難しさや厳しさを強調している報道から情報を得ていることが多い。一方で全国には、その学校の現状

に合わせた指導を進め、大きな成果を上げている実践はたくさんある。岡山県下の学校においても同様であり、その中核を担っている優れた教師もたくさんいる。しかし、そうした優れた実践が学生に情報として伝わる機会は少ないのが現状である。

そこで、学校現場で優れた実践を進めている教師や教育委員会職員に講師を依頼し、学校や地域で行われている取組の概要やその基盤となっている教育の理念や指導の在り方を、学生に直接話していただく場として「教師力養成講座」を開催している。学校現場で働く教師から子どもや教師の具体的な取組について直接話を聞くことで、学生は教師という仕事の魅力とやり甲斐を知るとともに、もっていた不安を和らげることができる。さらに、子どもが生き生きと学ぶ姿や教師が指導を通して成長していく姿を知ること、自分がこれから目指していく「育てたい子ども像」や「求める教師像」をより明確に描いていく助けにもなる。

「教育は人なり」と言われる。これは、いつの時代にも、教育に携わる者が自分を振り返るとき念頭に置きたい言葉の一つである。人を人として育てるのは人である。学校において子どもの自立をみず教育を進める教師に、人としての多くの資質を求められる所以でもある。本大学でも、教師をめざす多くの学生が学んでいる。その一人一人に、子どもを育てることの意義を自覚して自分の目標を明確にも

ってもらいたい。そのために活用できる機会になるよう様々な工夫しながら、今年も学校現場で実践されている優れた取組を基盤にした教師力養成講座を実施した。

## II 2016年度の実践

### 1 テーマの設定

テーマについては、これまでと同様に二つの観点をもとに設定している。

【視点A】教師を目指す学生が不安に思っている教育課題とそれに対する学校現場での取組

【視点B】学生に学んでおいてほしい教育の動き

教師力養成講座に参加した学生からは、毎回アンケートを通して講座に対する要望を汲み取るようにしている。本年度の受講生対象アンケート（第1回～第4回）の「取り上げてほしいテーマ」の記述にも、たくさんの方が記述されている。具体的な細かな内容までは読み取れないが、キーワードを大まかに整理してみると学生の要望を推測することができる。アンケートの記述には、講座の内容に関わる要望のほか運営に関わる要望も見られる。

### 【内容に関わるもの】

#### ○授業・魅力ある授業

「アクティブ・ラーニング」「協同学習」「グループ活動」「考える力を伸ばす」「継続性」「子どもを引きつける」「授業スキル」など

#### ○いじめ・不登校

「対応」「子どもへの支援」など

#### ○学級経営・クラスづくり

「学級目標」「子ども同士のつながり」「居心地」「学校としての取組」など

#### ○生徒指導・問題行動への対応

「積極的な生徒指導」「思春期」「授業中の生徒指導」「叱ること」「指導の難しい子ども」など

#### ○チーム学校・教師同士のつながり

「マネジメント力」など

#### ○地域社会との連携

#### ○教育相談・子ども理解

#### ○特別支援教育

#### ○ESDと学校教育

#### ○教師生活から学んだこと、考えたこと

#### ○考える力を伸ばす取組

#### ○保護者対応

#### ○キャリア教育

#### ○道徳教育

### 【運営に関わるもの】

#### ◇いろいろ吸収したい

#### ◇中学校の先生の話が聞きたい

#### ◇「こんなときどうする」(Q&A的なもの)

#### ◇高等学校での経験をお持ちの先生の話

#### ◇具体的な場面をとりあげての話

#### ◇積極的に活動している地域の人の話

こうした学生の思いの中には、観点Bにかかわる内容が重なっているものも少なくない。今年度のテーマ設定においては、観点Aとして「学級づくり」「生徒指導」「保護者対応」「授業づくり」などを、観点Bとして「児童・生徒理解」「教師に求められる力」「子どもが主体的に参加する授業づくり」「特別支援教育」などを考えた。二つの観点をもとに、テーマを設定し、講師の選定を進めた。

### 2 講師の選定

講師については、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の協力を得て選定している。学校現場で指導や対応について優れた実践をしておられる人材を、学校で勤務する校長、教頭、教諭、教育委員会事務局指導の指導主事等の中から選定し依頼している。平日開催のため、現在は岡山市とその周辺市町村の学校を中心をお願いしている。

この講座がスタートした2009年度の6回の講座では講師が全て校長であったが、次第に講師選定の幅を広げてきている。受講者の要望が多い「授業づくり」「学級づくり」「生徒指導」などのテーマに対して、具体的な指導場面での姿を伝えたいと考えたからである。そこで、学校現場で直接子どもの指導を進めている方に講師をお願いすることも多くなってきた。

#### 【2009年度（6回）】

校長6

#### 【2010年度（6回）】

校長4、教諭1、大学教員1

#### 【2011年度（6回）】

校長3、教諭3

#### 【2012年度（5回）】

校長1、教頭1、教諭3

#### 【2013年度（7回）】

校長2、教諭2、教育委員会職員3

#### 【2014年度（7回）】

校長3、教諭4

【2015年度（7回）】

校長5、教諭2

【2016年度（7回）】

校長2、教諭3、教育委員会職員2

### 3 開催・運営

講座の基本的な運営スケジュールを、下のよう  
に設定している。

(1) 開会（挨拶・講師紹介）	5分
(2) テーマの意義についての講話	10分
(3) 講師による基調提案	40分
(4) グループ討議・協同活動	20分
(5) 討議・活動内容の発表と共有	15分
(6) 講師によるまとめ	25分
(7) 受講者各自のまとめ	5分

運営にあたっては、それぞれの講座のテーマや講師の思いを生かせるよう、柔軟に変更している。それぞれの活動毎に、その概要と本年度の実施状況を紹介する。

#### 【(2) テーマの意義についての講話】

学生がその意義を十分に理解している場合や(6)「講師によるまとめ」で補足できる場合には、割愛している。本年度は4回とも実施していない。

#### 【(3) 講師による基調提案】

テーマについての基本的な考え方、学校での取組の概要、成果と課題などについての講師からの講話を行っている。伝える相手を想定して自分の伝えたいことをより確かに理解してもらうことは、授業の進め方のモデルとなることでもある。受講した学生の理解を深めるために、講師がいろいろな工夫をしてくださっている。本年度も、「基調提案」の中に受講者の意見交換の時間や小活動を積極的に組み込み込んで、理解を深める工夫をしてくださった。

アンケートには、次のような感想があった。「子ども達に伝える言葉と大人同士で話す言葉には大きな違いがある」「伝え方一つで子どものやる気に違いが出てくるので、伝え方の工夫の大切さも知った」「雑談力と話す力の違いが分かった」「先生の話し方（抑揚、明るさ、元気さ）も勉強になった」「先生の話し方、キャラクターがとても素敵で、もっとお話を聞きたかった」。

#### 【(4) グループ討議・協同活動】

受講者アンケートの中に、「有意義な時間である」「新しい気づきがあった」などの意見が多くある。そこで、基調提案を聞いて学生同士が意見交換をし

たり協力して活動したりする場をできるだけ充実させる方向で進めている。本年度は、事例への対応についての意見交換や話し合いなどを複数回組み込むことで、「グループ活動」としてのまとまった一つの時間帯を設定しない形で運営された講座もあった。講師が、受講生が参加しやすい指導の形を提案しながら講座を進めてくださった。

アンケートには、次のような感想があった。「具体的な事例を通じて、活発な話し合いの中で、自分の意見や考えを持つことができた」「様々な成長ができるいろいろな場面で人と絡んでいきたい」「グループの人と意見の交流ができた事で自分の考えていなかった視点から問題を見る事ができた」。

#### 【(5) 討論・活動内容の発表と共有】

まとまった発表をするときには、時間的な問題ですべてのグループからの発表ができないこともあるので、要領よく伝える発表を意識できるようにしている。本年度も、受講者の発表の機会が多く設けられ、発言を手がかりとして講座が展開され、意見を比べながら考えを深めていくことができた。

アンケートには、次のような感想があった。「今まで自分が持っていなかった視点の大切さを知り、自分の考えが深まったように思った」「具体的な事例を考える中で、自分とは違う意見を多く聞くことができて良かった」。

#### 【(6) 講師によるまとめ】

受講者の発表を受けて行っている。本年度は、「発表内容への講師からの評価や補足」「学校で行われている取組の紹介」「教師を目指す学生への期待と励ましのメッセージ伝達」などが行われた。

アンケートには、次のような感想があった。「支え合える環境作りの大切さを痛感した」「現場で働く時に、問題点を明確に把握できるようにしたい」「表面上の要求の奥底にある真の要求を見逃してはいけない」「働きかけも、個ではなく集団を意識することが大切なのだ」「生徒や保護者の内面的な想い、要求まで深く考えたのは初めてだった。生徒指導における考え方がこの講座のおかげで違ってきそうだ」。

### 4 2016年度の「教師力養成講座」

本年度実施した講座の概要は、[表1]のとおりである。

テーマについては、受講者のアンケートを参考にして「教師を目指す学生が不安に思っている教育課題とそれに対する学校現場での取組」として、「学級

づくり」(②③④⑥⑦)、「保護者対応」(③)、「授業づくり」(④⑥⑦)、「生徒指導」(②③④⑤)の内容を意識して設定した。また、「学生に学んでおいてほしいこと・教育の動き」として、「児童・生徒理解」(①～⑦)、「教師の使命感や責任感、教育愛」(①②⑤)、「特別支援教育」(①④⑤)などを設定した。< ( )内の①②③④⑤⑥⑦の数字は本年度の講座の

第何回かを表している> 講座の開催時期については、大きく前半と後半に分けている。8月まで講座受講者は4年次生が中心となり、後半の12月からの講座受講者は3年次生が中心となっている。参考までに、過去3年間の本講座の実施記録も[表2]に示しておく。

【表1】2016年度の「教師力養成講座」

実施日	回	テーマ	講師
2016年 5月 25日	第1回	「教員に求められる 使命感や責任感、教育愛」について	岡山市教育委員会
2016年 6月 22日	第2回	「学級を中心とした集団づくり」	総社市立中学校 校長
2016年 7月 6日	第3回	「生徒指導とクレーム対策」 ～これからの教師に求められていることを考える～	岡山市教育委員会
2016年 7月 20日	第4回	「学級経営をする上で大切にしたいこと」	岡山市立小学校 教諭
2016年 12月 21日	第5回	「『人の気持ちがわかる教師』とは」	岡山市立中学校 校長
2017年 1月 11日	第6回	「学ぶ意欲を高める授業づくり・学級づくり」	岡山市立小学校 教諭
2017年 1月 25日	第7回	「授業づくりのコツ」	岡山大学教育学部附属中学校 教諭

【表2】昨年度まで3年間に実施した「教師力養成講座」

実施日	回	テーマ	講師
2015年 5月 27日	第1回	「キーワードをもとに 教師の心得を考える」	岡山市立中学校 校長
2015年 6月 3日	第2回	「子どもたちの笑顔がいっぱいの学校づくり」 ～ 人権教育の視点を教育活動の基盤にすえて～	瀬戸内市小学校 校長
2015年 7月 22日	第3回	「教師を目指すみなさんに伝えたいこと」	岡山市立小学校 校長
2015年 7月 29日	第4回	「子どもの情報機器へのかかわり方を考える」 ～ 地域と連携して取り組む～	赤磐市立小学校 校長
2015年 12月 16日	第5回	「学校の教育力を高める『連携』の進め方」 ～小中校の学校間、地域との連携・協力の在り方～	岡山県立高等学校 校長
2016年 1月 13日	第6回	「市立中学校と生徒指導」	倉敷市立中学校 教頭
2016年 2月 10日	第7回	「魅力的な授業とは」 ～ 毎日悩みながら追い求めていること～	岡山市立小学校 教諭

実施日	回	テーマ	講師
2014年 5月 21日	第1回	「どの子どもも参加でき、どの子どももわかる授業」	赤磐市立小学校 校長
2014年 6月 25日	第2回	「小中高等学校におけるキャリア教育」	岡山県立高等学校 校長
2014年 7月 9日	第3回	「子どもの何を褒め、何を叱らなければならないのか」	岡山市立小学校 教諭
2014年 8月 6日	第4回	「多くの教師は、教師になって揺らぐ」	大津市立小学校 教諭
2014年 12月 17日	第5回	「ICTを活用した授業づくり」	岡山市立小学校 校長
2015年 1月 14日	第6回	「子どもたちにとって魅力的な授業」をどのように創るか」	岡山大学教育学部附属小学校 教諭
2015年 2月 18日	第7回	「今、学校現場で、教師に何が求められているのか」	岡山市立小学校 教諭

実施日	回	テーマ	講師
2013年 5月 22日	第1回	「体罰」を考える	倉敷市教育委員会
2013年 6月 26日	第2回	「いじめ・不登校」を考える ～ 原因や背景～	岡山市立中学校 校長
2013年 7月 10日	第3回	「いじめ・不登校」を考える ～ 対応と未然防止～	岡山市立中学校 校長
2013年 8月 6日	第4回	「保護者のクレーム」を考える	岡山市教育委員会
2013年 12月 4日	第5回	「子どもにとって魅力のある学級」をどう創るか	赤磐市立小学校指導 教諭
2013年 12月 11日	第6回	「子どもにとって魅力のある授業」をどう創るか	岡山大学教育学部附属小学校 教諭
2014年 1月 15日	第7回	「子どもの問題行動」にどう対応したらよいのか	岡山市教育委員会

### Ⅲ 2016年度アンケートから（受講者と満足度）

講座の受講者には、次のようなアンケート調査を実施している。アンケート結果を、「学生の受講者を増やす」「学生の満足度を上げる」という点から考察

し、運営改善に生かしている。

アンケートの回答は、5つの選択肢で評価したものの（「4」については7つの選択肢で評価）と自由記述によるもとで行った。

#### （アンケート項目資料）

- 受講者のこと 「性別」「学年」「所属学部・学科」「受験予定の学校種」
- 今回の講座
- 1 基調提案（最初のお話）について、どのように感じましたか。
  - 2 グループでの話し合いは、活発に行われましたか。
  - 3 グループでの話し合い中、あなた自身の発表はどうでしたか。
  - 4 グループでの話し合いの時間の長さはどうでしたか。（選択肢7）
  - 5 まとめ（最後のお話）について、どのように感じましたか。
  - 6 今回の講座で考えたことは、あなたが教師を目指す上で役立つと思いますか。
- 本講座
- 7 次回の講座にも参加したいと思いますか。
    - ・今回の講座の感想や質問など、自由に書いてください。
    - ・次回の講座で取り上げてほしいテーマを書いてください。
    - ・この講座のことを、何で知りましたか。
- ⇒「掲示板」「教職相談室で」「センターHP」「岡大教職ナビの情報」「友人から」「その他」

#### 1 学生の満足度

この講座をどのようにして知り受講したのかについては、[表3]のとおりである。教職相談室からの情報取得が特に多くなっている。講座の内容を直接対面して話を聞くことが受講に有効にはたらいている。

受講学生の講座に対する満足度は、[表4]のとおりである。調査した7項目の中から時間設定を除いた6項目のうち「基調提案」「グループでの話し合い」「まとめの講話」「教師を目指す上で役立つ」「次回の参加」の5項目については、受講者の95%以上が肯定的な回答をしている。一方、「グループ活動での参加者自身の発言」の項目については、肯定的な意見が84.8%あるが、他の項目と比べると10%ほど低くなっている。また、話し合い時間の設定については、56%が「ちょうどよい」と答え、「短く感じている」が37.1%、「長く感じている」が7%である。

全体として、受講した学生の満足度は高く、本講座のねらいに沿った成果が出ていると言える。ただ、グループでの話し合いについては、課題もある。受

講者のアンケートの自由記述の中には積極的に言及しているものはほとんど見つけられないが、アンケートの選択肢評価から、受講者自身には「もっと積極的に参加できるとよい」「もっと話してみたいことがある」という思いがあることが推測できる。しかし、授業化を想定した講座には120分という時間的な制約があり、その中では考えを深め合う話し合い活動だけに時間を当てられないという事情がある。ただ外から受講生の様子を見ると、グループ活動は今年度も活発に行われており、よく考えられた意見が発表されていた。講師からも、「話し合いの進め方と内容の深さに驚いた」「学校現場の教師でも気づきにくい点にも気づいている」などと、受講者の活動を高く評価していただいている。

受講した学生の満足度が次回講座への参加意欲の高さに確実につながっていると考えられる。学生の教職に対する意欲を高めることは、本講座の出発点である。学生の思いを十分に捉え講座の運営に生かしていきたい。

【表3】この講座をどのようにして知ったか。

(人)

教育学部の 掲示板	教育学部以外の 掲示板	教職相談室の 情報	センターHP	友人からの 情報	その他	計
7	1	125	9	7	10	159
4.4%	0.6%	78.6%	5.7%	4.4%	6.3%	100%

〔表4〕「教師力養成講座」受講者アンケートの結果

A: とてもよい B: どちらかと言えばよい C: どちらかと言えばよくない D: よくない E: わからない

	A	B	C	D	E
①基調提案	とても考えさせられた ←————→ 考えさせられなかった				わからない
	<b>132</b> 83.0%	<b>23</b> 14.5%	<b>2</b> 1.3%	<b>0</b> 0%	<b>2</b> 1.3%
②グループでの話し合い	とても活発に行われた ←————→ 活発に行われなかった				わからない
	<b>84</b> 52.8%	<b>70</b> 44.0%	<b>5</b> 3.1%	<b>0</b> 0%	<b>0</b> 0%
③あなた自身の発言	とても積極的に発言した ←————→ 積極的に発言できなかった				わからない
	<b>57</b> 35.8%	<b>78</b> 49.1%	<b>22</b> 13.8%	<b>2</b> 1.3%	<b>0</b> 0%
⑤まとめの講話	とても考えさせられた ←————→ 考えさせられなかった				わからない
	<b>134</b> 84.3%	<b>24</b> 15.1%	<b>1</b> 0.6%	<b>0</b> 0%	<b>0</b> 0%
⑥教師をめざす上で役立つ	とても役立つと思う ←————→ 役立つとは思わない				わからない
	<b>144</b> 90.6%	<b>15</b> 9.4%	<b>0</b> 0%	<b>0</b> 0%	<b>0</b> 0%
⑦次回の参加	参加したい ←————→ 参加したくない				わからない
	<b>118</b> 74.2%	<b>35</b> 22.0%	<b>1</b> 0.6%	<b>0</b> 0%	<b>5</b> 3.1%

2 講座受講生のアンケート自由記述

受講生アンケートの自由記述欄に記載された感想や意見を、「講座内容への共感や発見」「講座の運営や雰囲気」「自分が教壇に立つことへの意欲や思い」に分けて整理し、一部を紹介しておく。なお、①②③④は本年度の何回目の講座かを示している。(記載に際しては、誤字や漢字表記等について最小限の校正をして載せている)

【内容への共感や発見】

① 子ども達がてきぱきと行動するための工夫は、様々な場面ででき、掲示物や目標の立て方など学級の実態に応じた工夫の大切さを実感した。

① 実際に学校現場で働かされていた時のお話を聞いて、クラス全体の実態に応じて工夫をしていくことが大事だと改めて感じた。失敗した子や、行動が難しい子だけの指導を主にするのではなく、全体での指導をどのようにするのかを主に考えたい。

① 特別支援が必要な子ども、そうでない子ども、両方(全員)が個に応じた教育が受けられるように、教師ができる工夫について知ることができ、とても勉強になった。「懲戒」について講義として聞いたのは初めてだったので、改めて教師の職の責任感に

ついて深く考えさせられた。

② 教師として、また人間として素直、明るさ、謙虚さ、前向きさをもってこれからの人生を過ごしていこうと思った。

② 学校での取り組み、学級通信などの紹介があり、とても良かった。また、グループの話し合いの議題も3つとも現実味のあるもので、ためになった。

② 学級は、これから必ず関わっていかなければいけないものなので、その場で取った行動に対して後から反省することも多いと思う。行動を客観的に見て、次に活かせる教師になりたい。

③ 生徒指導やクレーム対応というのは、起こってから取り組むというイメージを持っていたが、そうでないということがわかって良かった。養護教諭としてこれから働いていくなかで、今日の学びを活かしていきたいと思った。

③ 日頃からの指導が大切だということを再認識した。問題行動、主張、要求はどういう思いでしているのか、よく考える必要があることを実感した。子どもも保護者も教師同士もつながっておくことが大切だということを学んだ。

③ まだ教師としての知識や経験が足りない今の自

分にはとても貴重なお話を伺うことができた。保護者対応や生徒指導においてとても重要になるのは「つながり」というキーワードだと感じた。生徒間のつながり、保護者とのつながり、教師とのつながりそれぞれとても大切だと感じた。

④ 学級経営について、子どもの力を借りてクラス全体をまとめていくことや、子どもの力の凄さを考えさせられた。今までの教師力養成講座の中で一番楽しく参加させていただいた。

④ クラスづくりは個への働きかけも必要だが、子どもを繋ぐ全体への働きかけ、個と集団を繋ぐことが大切なのだとわかった。子どもが笑う、居心地の良いクラスが実際に作られていることが、今回の講座を通じて感じられた。

④ 教師が子ども達のことをよく観ているから、良いところをクラス全体に示すことができ、その子の良さを活かした集団への働きかけができるんだと感じた。

#### 【講座の運営・雰囲気】

① 子どもに伝わりにくい指示をしていないか。このことについて、よく考えさせられた。初めて顔を合わせる人とワークをすることはとても良い活動だった。

① 経験に裏打ちされた具体的な活動を説明していただいて大変勉強になった。

① とても熱のあるお話が聞けて、教採を受けるにあたって気持ちが引き締まった様に思う。思いを持った、意欲を持った教員になりたい。

② 実際に起こりうる学級経営上での問題を考える事ができ、また、グループの人と意見の交流ができた事で自分の考えていなかった視点から問題を見る事ができて、とても勉強になった。

② 実際にありそうな事例について、他の人と話すことで、より実践的な思考ができたと思う。他の人の良い考えが聞けて良かった。

② グループで話し合ったり、他のグループの発表を聞いたりして、自分の持っていない意見が出て、とても勉強になった。実際は冷静な判断をするのが難しいと感じた。

③ 今までは生徒指導は、社会に出るまでに大切な生活習慣やマナーなどの指導だと思っていたが、今回の講義で題材として出された子どもの安全を保証するための指導も大切だと感じた。また、指導の方法や保護者への対応についても、多くのことを考える機会をいただいてとても貴重な時間だった。

③ 基本的な考え方を知った上で、具体的な事例を通して考えることでとても分かりやすかった。

③ 教員の現場ではケースバイケースが多い。それは授業を聞いてよく分かっていますが、今回は対応の基本から教えていただいたので、のちのち役立つと思う。

④ 実際にあった事例をみんなで考えることで、実感がわいて面白かったし、現場の先生方の取り組みを知ることができて勉強になった。

④ 各事例を分かりやすく提示していただいたので、ものすごくイメージし易かった。小学校に勤めても、このように子ども達にイメージを持たせることのできるバリエーション豊富な先生になりたいと思った。

④ 眠たい体で来たのですが、そんなことが関係なくなるほどの、本当に面白くて、ためになって、あったかいお話を聞かせていただき幸せだった。

#### 【教壇へ立つことへの意欲や思い】

① 教師になりたい気持ちがさらに大きくなった。教師は子どもの未来を左右する責任のある仕事なので、覚悟を持って頑張りたいと思った。

① もうすぐ採用試験ですが、改めて教師になりたいという気持ちとモチベーションを高めることができた。私の思いそのものを大切にしていきたいと思った。

① 子どもの立場に立って物事を考える、言葉にするということの大切さを改めて感じた。情熱を持ち、学ぼうとする姿勢を忘れずに、採用試験に臨みたい。

② 学級経営で気をつけることだけでなく、実際の事例を用いてお話をしてくださり大変考えさせられた。常に考え続けることの大切さを感じた。教員に必要な4つのこと、考えていこうと思う。

② 学級経営について考える場面があまりなかったので、とてもいい機会になった。今日の講義内容をこれからの教師人生に役立てたい。

② 学級経営の視点を知ることができた。ありがとうございました。是非教員になった時に活かしていきたい。

③ クレーム対応、生徒指導という個への対応のイメージでしたが、それは表面上のもので、真の要求に対して対応していく一次的支援の重要性を強く感じた。子ども同士、保護者同士のつながりを作りながら自分自身も人とのつながりを大切にしたい。

③ 1次支援から3次支援までつながりを持って大切にしていきたいと感じた。養護教諭は単数配置で



あることも多いため、他教員としっかり連携し、子どもや保護者の対応に当たっていききたい。

③ 普段考えることのないクレームなど、考える機会ができて非常に良かった。これを参考にもっと教師力というものを考えたい。

④ 終始惹き付けられる魅力的なお話だった。このお話を基に改めて生徒指導、クラス経営について考えていこうと思った。

④ 子ども達の力を感じる話を沢山聞いて、とても感動した。理想と現実のギャップは大きいと思うが、子どもの力を最大限に引き出せるような先生になりたいと思った。

④ 私は小学生の頃、人の輪の中に入ることが得意ではなかったのが、事例3における取り組みは、とても子どもの気持ち側に立ったものだった。子どもを信じる、子ども同士を繋ぐことを沢山実践していきたい。

#### IV 受講生の所属

教師をめざす学生が参加する教師力養成講座には、[図1]のように教育学部の学生が多く参加している。受講者数を見ると、当然のことであるが教育学部で

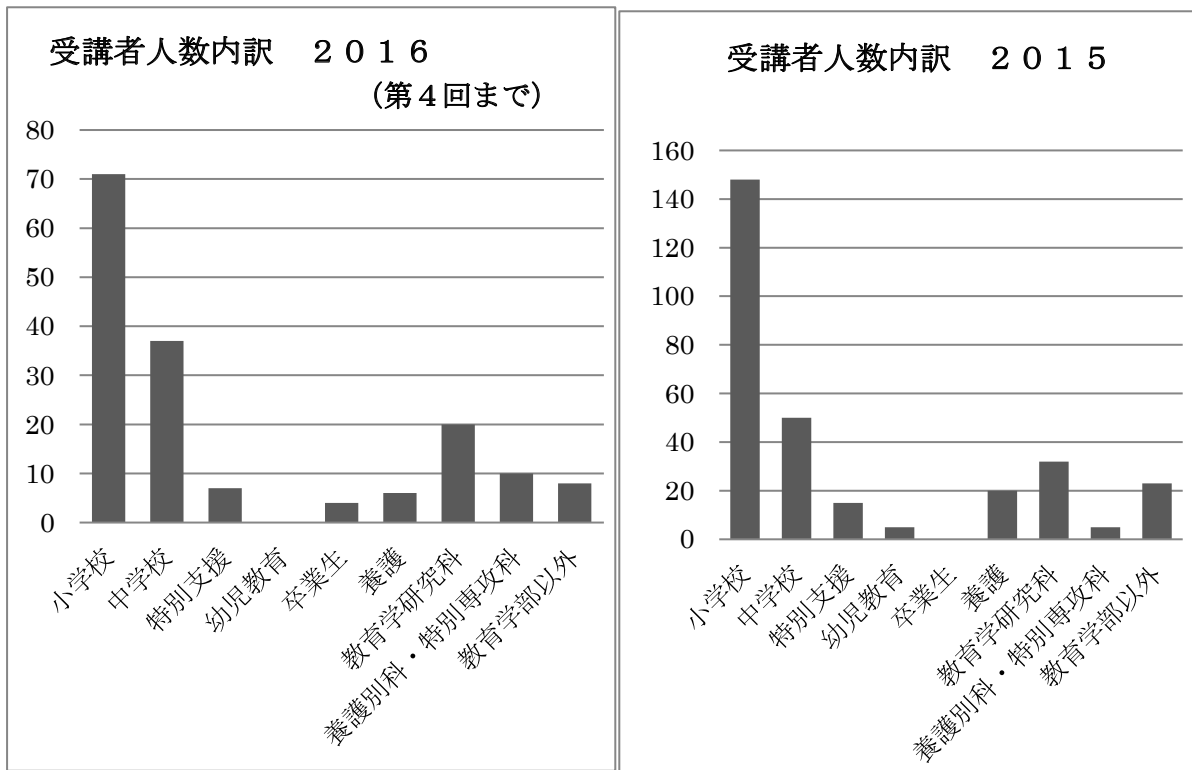
も定員の多い小学校コースや中学校コースの学生の受講が多くなっている。一方、岡山山大学教師教育開発センターは全学部を対象にした組織であり、講座には教育学部以外の課程認定学部の学生にも受講して欲しいと考えている。課程認定学部の学生の受講者数は、次のようになっている。

◇2014年度	9%	26人
◇2015年度	8%	23人
◇2016年度(4回分)	5%	8人

受講学生の数は、年により、回により差が見られる。課程認定学部が8学部あり、全ての学部の学生が受講できるような開催日や時間等の設定は難しい面がある。そこで、学生が確実にこの講座を受講できるようにしたいと考えている。それを実現できる方法の一つが、この講座を授業化することである。曜日と時間の枠を固定することで、課程認定学部の学生が履修しやすいようにすることができる。これからの課題として、取り組んでいきたい。

現状では、録画したDVDの視聴で補うとともに、開催情報がより多くの学生に伝わるよう努力を続けていく。

【図1】受講者の所属内訳グラフ



## V 成果と課題

本年度も、学校現場や教育行政の場で、目ざす目標を明確にもって子どもや教職員と向き合い、質の高い教育活動を進めている講師の方から直接お話を聞くことができた。受講者は、子どもが充実した生活を送っている学校、教職員が協力して生き生きと仕事を進めている学校があることを知った。そのことを知っていることは、これから教師を目指す学生にとって、自分が目指す子どもの姿を描き、目指す教師になっていくための大きな力となる。

本年度の講座を受講した学生の満足度は高かった。受講者アンケートの自由記述欄からも、教師を目指して前向きに取り組もうとする学生の熱い思いを読み取ることができた。講師は、講座の趣旨を理解して、「これからの学校を託していく人たちのために、私にできることであれば協力します」と、短い時間の中での運営を熟考し、受講者を巻き込んで心を動かす講座運営をしてくださった。それに応えて受講者も、真摯な態度で前向きに参加していた。

受講学生の声を大切に、教職への意欲と実践的指導力を高めるために引き続き本講座の充実に取り組んでいきたい。

### ○講座の開催時期

今年の講座は、5月～8月に4回、12月～1月に3回と、前半と後半に分けて計7回の開催をした。後半の講座の受講生が3年次生を中心としたものになることは、定着しつつある。しかし、採用試験に合格し4月から学校現場に立つ4年次生にこそ聞いてほしい内容も盛り込んで講座を計画している。講座の開催情報の入手先は教職相談室であるが、年度後半に相談室を訪れる4年次生は少ない。本年度は、教職ガイダンスでの案内、各学部掲示板へのポスター掲示、教師教育開発センター事務室前や相談室内へのチラシの設置、教師教育開発センターホームページへの掲載等で広報を進めた。また、教職相談室の来室者に講座を紹介して、友人への呼びかけも依頼した。4年次生への広報として、教育学部の各研究室への申込書の配布やメール配信などの広報にも力を入れていきたい。

講座の開催時刻についても課題がある。本年度から岡山大学では、全学で60分授業・クォーター制が実施された。学生にとっても初めての経験であり、通常の授業が組まれている曜日には講座開催が難しいと考え、水曜日の午後実施した。しかし、水曜

日の午後にも、集中講義、実習等に関わる事前事後の指導、課程認定学部学生を対象とした授業などが実施されることもある。120分の講座を、全ての学生が参加しやすい形で計画することは、難しい。その中でも、よりよい形での講座開催を進めていきたい。

### ○授業化に向けて

岡山大学では、教育学部を含め8学部が教職課程認定を受けており、毎年400名ほどの学生が教員免許を取得している。そうした学生に実践的指導力を確かに身につけさせるために、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」をバランスよく身につけることが「教育実践力」であると描いて、指導を進めている。これらの力を育成するために学校現場で十分な体験を行うことは、時間的にも限界がある。もちろん学生が経験している実習やボランティア活動の中で得た情報は貴重なものである。それに加えて「教師力養成講座」では、「優れた取組である」という条件を大切にしながら、学校現場で行われている教育活動を紹介することで学生の学校現場への視野を広げ、実践的指導力の育成につなぎたいと考えている。現在の講座は、教職相談室が中心になって単年度ごとに数回ずつ計画している。そこには、より確かな実践的指導力を学生に身につけさせるために、できれば受講者には7回の講座全てに参加して欲しいという思いもある。

それを実現するための一つの方法として、本講座の授業化への移行を検討している。2014年度、2015年度には、文部科学省の調査研究事業を受け、先進的な取組を進めている大学や教育委員会への訪問調査、講座受講学生に対しての本講座を授業化することに関するアンケート調査等を進めてきた。

そのアンケートには、授業化に向けて積極的な意見として、次のような記述があった。「教員志望者にとっては勉強になる話ばかりなので、授業化して単位も出るならとてもいい」「様々な教師になるための心得や先生方の経験といった視野の広がるような話を聞ける」「このような話を聞くチャンスを設けるという点で授業化すべきだ」「授業の時間だと参加しやすい」「前々から副実習で来たくても来られない、インターンシップがかぶっている、という人の声を聞いたので、授業時間の方がよい」。主に内容の充実や活動のよさ、参加のし易さを意識した意見が多かった。一方、アンケート記述に見られる授業化への消極的な意見として、「参加したい人だけが集まるので

自分のモチベーションも上がる」「グループでの活動をよくするにはが、意欲的な集団でやるのがよい」「授業化すると、時間制限があるため、内容にも制限がでてしまう可能性がある」「実習も終え、学校の実態をしっかりと把握して自分の中でバックグラウンドを作ってからでないのだめだ」「今は夏休み中でも講義をしていただける」

「必修ではない方がいい」など、参加者の意欲、時間設定、受講の仕方などに関するものがあった。

本年度は、授業化を見据えて教師力養成講座の時間枠を120分に固定して実施してきた。また、平成30年度に高年次教養教育科目としての授業化を旨として、受講者のアンケート結果や参加状況を踏まえながら、年間の授業実施時期、講師選定の仕方、対象とする学生の範囲等を検討している。

## VI 終わりに

教師力養成講座も8年目を迎えた。各回の講座において、学校現場で活躍する教員の姿や熱い思いが確かに学生に届いていることを改めて実感している。

本講座が、学生が新任教師として学校現場で教壇に立ったとき、4年間学んで身につけた自分の力を発揮するための一助となれば、うれしい限りである。

本年度も、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会のご協力をいただき、講座を実施することができた。講座を担当してくださった講師の先生方、高塚教師教育開発センター長を始めとした教師教育開発センターの諸先生方・事務スタッフの方々からは、準備段階からたくさんのご助言とご支援をいただいた。

関係の皆様に、心から感謝申し上げます。

## 参考・引用文献

- ◆「2014年度教師力養成講座」の概要  
—実践的指導力を有する教師の育成のために—  
(2015岡山大学教師教育センター紀要第5号)
- ◆「2015年度教師力養成講座」の概要  
—実践的指導力を有する教師の育成のために—  
(2016岡山大学教師教育センター紀要第6号)

---

Title :Outline of "A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers - Academic year 2016"

Subtitle :To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers

Author :Mikio BUTO\*1, Satomi KOCHI \*1, Seitaro KOBAYASHI \*1

Keywords: the specific examples of the efficient approach to the problems worrying teachers,  
developing the practical leadership skills, the progress of our management plan for the future

\*1 Center for Teacher Education and Development, Okayama University

---